

～ごあいさつ～

明けましておめでとうございます。

ご利用者の皆さん、ご家族の皆様、旧年中は当施設の運営にご協力いただき、ありがとうございました。心より御礼申し上げます。本年が、皆様に幸多く、充実した年になりますように祈念いたします。

日本の介護を振り返ると、1980年代にスウェーデンやデンマークの北欧諸国の先進的な高齢者ケアに注目し、1990年頃からは、日本でも高齢者介護のプランが作られ、2000年に介護保険法が施行されて、15年になります。

年々、日本経済が厳しくなる一方で、要介護人口は増え続けており、その財源、職員確保などの課題を抱えながら、今日に至っております。

私は、団塊世代です。集団就職や進学で、地方から都会に移り住んできました。この世代が、ほぼ仕事を終えて、次に自分たちの介護を必要とする時代になりました。今は老老介護で、見る立場ですが、近い将来、つまり10年後には介護を必要とするでしょう。この世代の人口は、同一年令で200万人弱がおりましたので、大量の介護需要が発生します。

介護保険が始まって、途中までは拡充の方向で進められてきましたが、3年ごとの見直しの度に、厳しい運営を迫られるように変えられてきています。そこで思うのが、経済の動きとの連動です。財源が、国の財政に制約されるのは、仕方ないことでもありますが、この際、介護のあり方も改めて考え直す時代になっているのでは、と痛感しています。

深沢七郎の「檜山節考」の世界は、衣食住に事足りて生きていくことが困難だった時代に、「おりん」ばあさんが、布を織り、穀類など食料を次世代に手渡して舞台を降りる姿を描いています。今、介護サービスには、介護保険や自己負担で支払われていますが、これから団塊世代の大量な要医療・介護時代に向けて、医療・福祉への財源が厳しさを増すということで益々個人負担は増えます。更に増えるだけでなく、施設や在宅サービスの供給不足も想定されます。

料理をつくるのに、食材が不足、つまりレシピどおりの食材が手に入らないときに、どうするか。賢い料理人は、いろいろ工夫して間に合わせることを考えます。こんな時代の到来を感じています。

人が、それぞれの力を合わせ、持っているものを持ち寄って、何とかする。これからは、福祉にしても、みんなもっているものを持ち寄って、何とかしようという時代になりそうです。そんな時に、皆さんに楽しんでいただいている行事や日頃のレクリエーションでいろいろなことを試みるのも、その土台作りの一つになるように思います。行事やレクリエーションは、今の楽しみとこれからの準備にも大切に思えて仕方ないのです。

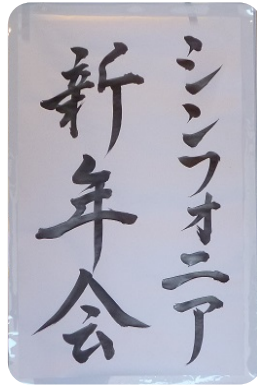
本年も、ご利用者、ご家族の皆さんとともに、利用者の皆さんの「充実した生活」と「納得の人生の一頁」がつかれますように、職員一同頑張っております。よろしくお祈りいたします。

～イベント紹介～



H28. 1. 1

今年も元日より新年会がありました。
 新年の挨拶、乾杯に始まり、
 昼食を楽しみつつ松永先生による詩吟を鑑賞しました。その後は、職員による獅子舞と「富士の山」の合唱、全員では「一月一日」「ふるさと」を合唱しました。



◎ 元旦のメニュー ◎

変わり飯 2 種盛りく赤飯・牛しぐれ寿司
 天ぷら盛り合わせ
 銀だら 柚庵焼き
 錦松風焼き
 お吸い物
 おせち
 柚子ゼリー



H28. 1. 3 (日)

『寿太鼓』の皆さんが来てくださいました。息の合った演奏は利用者様も楽しんでいました。一人で3台の和太鼓を演奏される姿はとても見応えがありました。最後は、ヨネスケの長生き音頭を和太鼓と踊りで披露して頂きました。利用者様もこの歌のように元気で過ごして頂きたいです。

